

# レファレンスの鬼となれ！

## 市民ジャーナリスト講座5



講義資料  
2004年6月2日  
提供 山恵子研究室  
道工大 碓山 執筆/編集 剛 田  
平 田



平田剛士・著 地人書館・発行  
著者割引価格で  
絶賛発売中

### レファのオキテを ご教授しましょう

きょうはレファレンス演習。でも、この「レファレンス」という言葉、意味をご存じだろうか。辞書を引いてみよう。(Reference)①参考。参照。②照会。問い合わせ。(三省堂『ハイブリッド新辞林』一九九八年)。あるいは「Reference」①参考。参照。「一ブック」②照会。問い合わせ。「一サービス」(三省堂『大辞林』一九八八年)。  
——これがレファレンスだ！  
(平田剛士)

### ネット検索も ラクじゃない

ネットサーフィンならお手のものアナタだから、まず検索エンジンにアクセスして空欄にキーワードをタイプし、検索アイコンをクリックするだろう。よしい、やってみよう。たとえば「Google」を呼び出して「生物多様性」と打ち込むと……ゲゲッ、「検索結果約一六〇〇〇件」だって！ これじゃあ情報を絞り込んだことに全然ならない。

けれど仕方ないので、検索ロボットが表示してくれた各ページのさわりを眺めながら、目を引かれたサイトをブ

ラウズし始める。確かにどれも魅力的で、「へえ」と思わせるのだけれど、うーむ、いったいこれをどうリポートにまとめたいのか……。えーい面倒だ、どうせ教官だって分かりっこないんだから、丸ごとテキストにコピー(Copy&Paste)して連結しちゃえー！

借しい！ いいところまでいつている。プロの研究者やライターも結構、同じような経路をたどって目当ての情報を集めようとする。ただし、最後が異なる。プロは情報「源」にこだわる。プロはまず、自分がレファレンスで集めたその情報がホントなのかウソパチなのか、見破った

べきれないフレーズは、中身を検証

んなこと言われたら安易にコピーできないじゃん、とお思いかも知れない。けれど手はある。注目ポイントは「情報源」だ。

あるページで「使えそうな」フレーズを見つけたとする。フレーズをコピーする前に、「このだれが何を根拠にそう書いているのか」をトントン調べるのだ(根拠を簡単に調べきれないフレーズは、中身を検証

俺のスペースは……?

### 用 例

この用語〔「生物多様性」を指す、引用者注〕、多くのみなさんはすでにお馴染みに違いない。念のためにその出自をおさらいしておこう。前著『エイリアン・スピーシーズ 在来生態系を脅かす移入種たち』(緑風出版、一九九九年)に引き続き同じ文献の同じ箇所からの引用で恐縮だが、保全生物学者の鷲谷いづみさんはこう解説している。

〈「生物多様性」という用語は、種の大量絶滅・衰退と生物学的侵入による生物相や生態系の全地球的規模での急激な変質という「危機」的な事態を憂慮する生物学者によって、問題を科学的に捉えると同時に危機を回避するための目標を明示する言葉として、一九八〇年代の後半に作られたものである。〉(「生物多様性とは何か——「危機」が生んだ科学用語」『生物の科学遺伝別冊 No.9』収録、裳華房、一九九七年)

つまり「生物多様性」は、最初からはっきりひとつの目的をもって生み出された戦略的な新造語なのだ。  
——平田剛士『ルポ・日本の生物多様性 保全と再生に挑む人びと』(地人書館、二〇〇三年)「まえがき」から

できないので使い物にならない。ウソの情報をおもひこぼしにして、自分のリポートにあたかも自説のようにそのまま書いたりしたら、「発で信用(仕事)を失うからだ。それに、コピーべばっかり濫用していたら著作権法に触れる。盗作がばれたら、たぶん再起できないだろう。

書き手にすれば、◇でくつつたフレーズがウソかマコトか、厳密には判断できなくても、少なくとも「……」と、○×さんが「△□」という論文の中で述べている」という点だけは間違っちゃいけない。つまり、出典を添えて引用する限り、アナタは「ウソを書いた」とツッコまねば済むわけだ。引用のルールは「自衛

たたとえば「生物多様性は大切に守らなくちゃいけない」と思う」とアピールしたいとき、なぜそう思うのか、きっちり説明できなければ相手(読者)に理解も共感もしてもらえない。「現実には生物多様性が猛スピードで損なわれているから」と理由を書くな、具体的に、「損なわれている」か、実例を挙げて解説するのが一番だろう。

### 引用のルールを 駆使せよ

レファレンス、それは繰り返すもの